

**事業名** 養護施設運営【ニュー・チャイルド・ケア・センター(NCCC)】

**事業分類** 被災地・紛争地における自立・復興支援

**NCCCの目的** :孤児、あるいは孤児に準ずる子ども(両親や親戚が養育できない状態におちいった子どもが安心して生活できる環境で養育を受け自立できるように物心両面から支援し、良き市民としてカンボジアを担っていく人材を育成する。

**場所**:シェムリアップ州タクヴェル郡チェイ村

**子どもの数**: 17名 (2017年3月31日現在)

### 校外教育

・**日本語教育**: チェイ小のHG日本語教室に、小学校高学年と中学1年生の子どもが週4日(月、火、水、金)参加している。

高校生1名と中学3年生の2名は、シェムリアップ事務所で実施しているBBU日本語教室分室で大学生と共に日本語を学び始めた。

・**アプサラダンス**(クメール伝統舞踊):カンボジアの伝統に触れるため、毎日曜日の午前に2時間習っており、センター訪問者に踊りを披露している。

・**絵画教室**: 昨年同様、月2回(隔週の土曜日午後)、「小さな美術スクール」(主宰者・笠原知子先生)で、絵画教室(油絵やアクリル絵)に参加。

今年も、ウォーキングイベントのTシャツのデザインは子ども達の絵を採用した。



NCCCの子ども達



アプサラダンスを披露

### 歯科検診と歯磨きの習慣

一昨年、昨年に引き続き、12月に、TAO(東洋医学研究会)の歯科医の先生方に、歯科検診と虫歯予防教育を実施していただいた。2年前から始まったこの活動により、子ども達には毎日の歯磨きの習慣が付き始め、虫歯が多かった口腔内の状態も改善している。

### 3人の子どもがNCCCを卒園

サモットとスライヤット兄妹が、親元に引き取られてNCCCを卒園した。彼らの保護者から、経済状態が良くなったため子供を引き取りたいという申し出があり、2人は夏休み中に中学の転校手続きを済ませ親元に戻った。また、義務教育を終えたサレーがNCCCを卒園し、実家のある田舎に戻った。



絵画教室で笠原先生と

### 畑での野菜の収穫

今年も昨年に続き、スタッフのタイリーが中心となって畑作を行い、少ないながらも野菜が収穫できた(トムモロコシ、オクラ、カボチャ、空芯菜など)。

子ども達は畑仕事を手伝うことで、農作業の大変さや収穫の喜びを学んでいる。



岡山学芸館高校・清秀中学校の活動

### 日本との交流 (年間 24 組を受け入れ)

夏休みに来訪した神戸学院大学の学生達は、NCCC でミニ運動会を開催し、さまざまな競技を子ども達に教えてくれたり、たこ焼きを一緒に作ったりして大いに盛り上がった。岡山学芸館高校・清秀中学校は、本年も継続して来訪され、ボランティア活動(支援してくれた浄水器の整備・野菜栽培)に汗を流した。学芸館SGHチームは子ども達と交流後、チェイ村の聞き取り調査をした。

NCCC では今年も、岡山の小学校とスカイプを使った交流を行い、お互いに顔を見て、声を聴きながらの交流を継続することで、子ども達は、行ったことのない日本の生活や学校について想いを膨らませた。また、ハート・ペアレント(里親)さんもHGスタディツアーに参加して、子ども達と楽しいひと時を過ごした。

### ボランティア受入れ

9月に5日間、新潟国際大学の学生1名がボランティア活動を行った。



スカイプで日本の学校と交流

### 支援・協力団体

ハート・ペアレント、スタディーツアー参加者、TAO(東洋医学研究会)、高野山真言宗南真会、岡山せとうちライオンズクラブ、岡山学芸館高校・清秀中学校、協力小・中・高・大学、(株)翌檜、(有)キャッチボールカモン R、藤沢ロータリークラブ、(株)MUGEN、チャリティディナー実行委員会